

燃料費削減
の切り札

Tank Tiger

タンクタイガー

エコマンの提案する解決策

～ How To Reduce For CO2 ～

燃料の問題点 - CO2 削減の限界
Solution Target

★燃料の酸化

液体燃料は 12 か月以内に使用することが推奨されています。事実震災時のいざというときに非常用発電機が使用できなかった事例がありました。

★燃焼のロス

液体燃料中には燃料分子が集まりかたまり (スラッジ) になったものが存在します。保存期間が長くなるほど燃えにくい燃料へと変質します。

★燃料の不燃物質

すべての燃焼は、C(炭素)H(水素)がO₂(酸素)と結合して、CO₂(二酸化炭素)とH₂O(水)になるので無公害なはずなのですが、実際には燃料の持つ不純物によって窒素酸化物および粒子状物質 (PM) を発生させて大気汚染の原因となります。

タンクタイガーを投入すると
Tank Tiger Benefit

★燃料の酸化を防ぎ、
長期保存を可能にします。

保存期間中に増え続けるスラッジの発生を抑えます。

★燃焼のロスをプラスに変える

スラッジを溶解するだけではなく、燃料の通常燃焼ではみられない燃焼を作り出し、粒子状物質 (PM) をエネルギーに換え、燃焼中に分子間で行われる着火リレーと酸素結合をスムーズにして、CO₂の発生を抑え、熱エネルギー伝導ロスを極力防ぐ。これこそが燃焼効率を最大限引き出すタンクタイガーの効果です。

★簡単にCO₂発生量を下げる。

タンクタイガーは燃料1万Lに対し、わずか1Lを加えることで燃料動粘度を変化させ、大幅に燃料使用量=CO₂を低減することを容易にするだけでなく、大きな負担となっている燃料費を削減して、環境と経営の両面をサポートいたします。

★重油の燃焼比較★

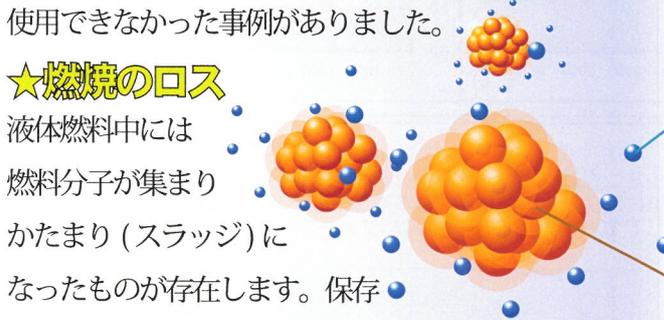
燃料が不完全燃焼するとススが発生します。タンクタイガーを添加した重油は、通常の重油に比べ、ススの発生量が非常に少なくなります。ススの減少は燃料分子が酸素と結合しやすくなったためであり、完全燃焼に近づいた結果といえます。

★ハード面の持つ問題点★

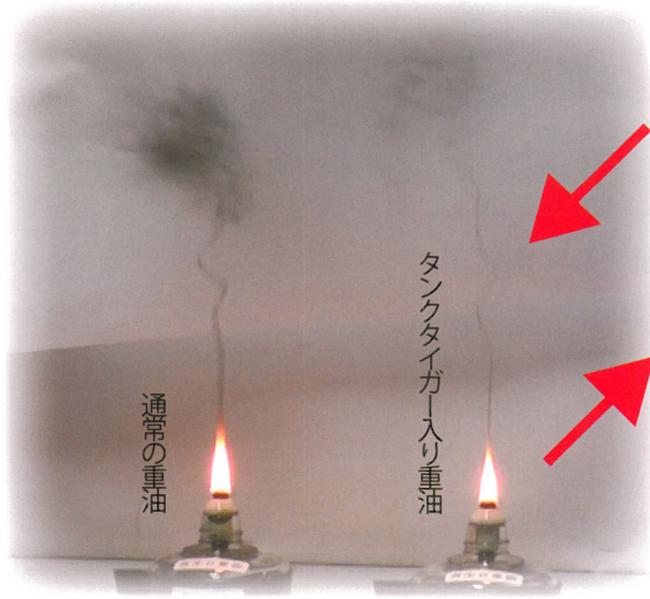
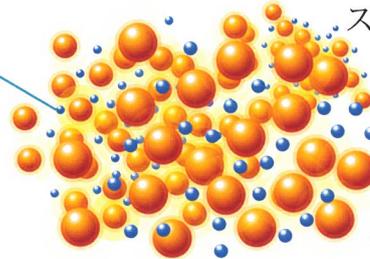
ボイラー、エンジンなどの各メーカーの努力により、省エネ燃焼機器の発達は目覚ましいものがありますが、燃料を効率良くエネルギー変換するハード面の開発には限界があります。ハードの性能、寿命を維持するためには、燃料&燃焼のレベル (ソフト面) でのアップデートが必須です。



E A J
キャ
ラク
ター
「エ
コ
マ
ン」



酸素分子
燃料分子



燃料比 1/10000 の量でOK!
石油系液体燃料活性触媒タンクタイガー

- ・ガソリン用 PS-1
- ・軽油用 PS-1K
- ・灯油用 PS-1T
- ・A重油用 PS-1B



ECOADVANCED JAPAN